事業実施主体名:まるっぽ間人プロジェクト推進協議会

令和7年7月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(活動計画策定事業)	
京都府	くたのと声	間人地域のロケーションと、間人漁港衛生管理型荷捌所に水揚げされる豊富な海産物を活用し、新しい生活様式の中で、地域内外の交流が、原港には大きないである。	
京丹後市	令和3年度	流を促進し、間人地域のにぎわいづくりを行う。	

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

たいざ食堂の取組について、運営体制の確保が難しく、取組回数が不十分となり、売り上げが目標を達成しなかったことから、十分な成果を上げているものとは認められない。 目標のうち「たいざ食堂の売り上げ」が低調となった問題点について分析を行い、その上で必要な改善策を講じ、令和6年度の取組を推進されたい。 今後は、たいざ食堂が定期的に開催されるよう協議会と地域が連携して取り組むなど、実施体制の見直し、強化が必要と考えられる。

2. 低調と評価された要因

移住定住促進のためのワークショップの開催や、Googleマップ、SNSでの情報発信を強化する等により関係人口獲得を図ったが、たいざ食堂の取組回数が不十分であったと考えられる。

3. 目標達成に向けた方策

令和6年度の域学連携は同志社大学に加え、佛教大学が参加し、移住促進施策を検討するワークショップを開催した。地域おこし協力隊と連携し、InstagramやGoogleマップへ地域情報を投稿するなどSNSでの情報発信を継続し、移住候補者である関係人口の獲得を図った。

たいざ食堂は、地域内の世代間や関係人口との地域間交流を目的に定期開催するとともに、地域内外のイベントへ参加し、間人漁港で水揚げされた海産物を活用した 料理を提供し、地域の魅力発信を行った。

4. 改善状況

都市部でたいざ食堂を開催により売り上げ(328%)や交流人口(105%)が大幅に増加した。 このことから、総合的にみて成果が上がっており、改善が図られているため、 今後の指導は必要ないと考えられる。

事業実施主体名: 五筒荘金堂地域歴史的資源活用まちづくり推進協議会

令和7年7月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業)	取組概要(市町村・中核法人実施型)
滋賀県		光まちづくりをワークショップ等により理解醸成を図る。観光客の滞在	国の「重要伝統的建造物群保存地区」にある「近江商人屋敷」を地域の農泊中核施設として、分散型ホテルのフロント、客室、レストランの機能を整備。
東近江市	THE PER TIME	モーンョンに同けた素材収集等を実施。	

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価委員会での評価コメント)

既存の一棟貸しの宿泊施設「外村宇兵衛邸」と同じ敷地内に新たな宿泊棟を開業(令和5年6月)したこと及びインフルエンサーを活用した広報周知等の宿泊者増加に向けた取組により、施設の売上高、延べ宿泊者数は増加した。しかしながら、売上高は2年続けて達成率70%未満となっており、宿泊者数の増加が売上高に結び付いていないのが課題である。引き続き指導するべき。

(目標達成に向けた指導・助言等)

目標のうち「売上高」が低調となった問題点について分析を行い、その上で必要な改善策を講じ、令和6年度の取組を推進されたい。 延べ宿泊者が増加が売上高に結び付いていないのは、宿泊施設の利用者が地域で体験、飲食を利用する場、機会が、少ないためと考えられる。引き続き、地域住民と の合意形成や理解度の醸成を図るとともに、「三方よし」の精神を学ぶ宿泊型研修施設としての販売促進等の取組が必要と考えられる。

2. 低調と評価された要因

宿泊施設の利用者が地域内で体験、飲食を利用する場が少なかったためと考えられる。

3. 目標達成に向けた方策

近江商人の理念である「三方よし」の精神に関する広告宣伝活動を実施を行う。 外村宇兵衛邸を活用した夜カフェイベントやマルシェイベントなどを開催する。 地域内で行われる体験プログラムを増やす。

4. 改善状況

令和5年度は、売上高(101%)、延べ宿泊者数(108%)は目標に達した。外村宇兵衛邸は大人数での利用、離れは少人数での利用といった施設特性に合わせた利用があり、相乗効果が得られた。地域イベントとして行った夜カフェやマルシェ開催時に、外村宇兵衛邸の宿泊施設の利用をPRしイベント後間合せが増加した。食事付体験プログラムはの売れ行きが好調であった。外村宇兵衛邸及び離れの業績向上に伴い、金堂地域に人の往来が生まれ、周辺に2店舗新たに飲食店が開業した。このことから、総合的にみて成果が上がっており、改善が図られているため、今後の指導は必要ないと考えられる。

事業実施主体名:びわ湖の素米原古民家暮らし協議会

令和7年7月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(市町村・中核法人実施型)
滋賀県		日本そば発祥の地を活かし、地域で受け継がれている個々の農家 に伝わる味を東草野「家そば」として提供するため、研修会及び地元	
米原市	令和元年度	農産物を使用した料理メニューを開発、体験プログラムの造成、集落を訪れる人達を受け入れるための研修等を実施。 専門家の協力を得て、農泊の取組推進の中核となる人づくりを実施。	

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価委員会での評価コメント)

令和5年度は、地域と連携した体験プログラムの見直しや、ビーガン食事、近江牛と飛騨牛の食べ比ベメニューなどの提供により、売上の増加や地域への貢献も出てきているが、目標の達成には至らなかった。このため、体験メニューのイベントの開催や、連携している旅行会社(Airbnb、JTB)とインバウンドの呼び込みを強化する必要がある。

(目標達成に向けた指導・助言等)

目標のうち「売上高」、「延べ宿泊者数」が低調となった問題点について分析を行い、その上で必要な改善策を講じ、令和6年度の取組を推進されたい。 売上高、宿泊者数を増加させるため、既存の景観等を活用した体験メニューの開発や宿泊者への食事提供に工夫が必要である。また、インバウンドの呼び込みに向けて、インバウンドに強い旅行会社との連携、「そよも」の屋号に係るストーリーの展開やSNS等による情報発信等が必要である。

2. 低調と評価された要因

新型コロナウイルス等の影響で宿泊者数だけでなく、非接触を好まれる宿泊者が多く、体験メニューや食事メニューも注文が少なかったことが考えられる。

3. 目標達成に向けた方策

宿泊費の見直しや地域と連携して体験ツアーの開発する。

ツアーは炭火焼き体験、びわ湖クルーズ、甲津原営農組合漬物加工部の女性陣と会話しながらのそば打ち体験や梅干し干し体験など様々な体験ツアーを宿泊者の要望に合わせて開催する。

4. 改善状況

令和5年度は、売上高(71%)、延べ宿泊者数(71%)ともに向上したが、目標の達成には至らなかった。SNSのロコミやリピーターの増加、また自然と触れ合い非日常を楽しみたいファミリー層や女子旅や友達同士の訪問者が増えたことにより、宿泊者数が増加し、宿泊費を見直したことにより売り上げも増加した。体験メニューなども積極的に取り入れ、地域への還元も出てきて、地域の人々から積極的に協力を得られるようになった。また、地域内のイベントに参加、体験メニュー体験者が、米原に移住計画を検討中であり、地域貢献にもつながり始めた。

このことから、総合的にみて成果が上がっており、改善が図られているため、今後の指導は必要ないと考えられる。

事業実施主体名: 丹牛の里暮らし協議会

令和7年7月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(市町村・中核法人実施型)
滋賀県	△₹□9年度	地域で受け継がれている郷土料理を来訪者へ提供するための研修会、地元特産物を使用した食事メニューの開発、体験メニューの造成、地域を訪れる人達を受け入れるためのオペレーション等の研修	地域内の築150年程の茅葺の古民家を改修して、地域の農泊の取組を進めるための宿泊施設として整備し、様々な体験メニューの拠点としても活かしていく。
長浜市		会及び情報発信等を実施。 専門家の協力を得て、農泊の取組推進の中核となる人づくりを実施。	

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価委員会での評価コメント)

令和5年度には、地域と連携して宿泊対応、体験メニューの見直し等を行い、野菜の収穫体験やその食材を活用した食事の提供を実施した。宿泊者数は目標に達したが、体験メニュー、食事メニューの提供については、人手不足のため十分に行うことができなかった。このことから、売上高は、昨年度に比べると増加したものの、目標を達成することはできなかった。引き続き指導するべき。

(目標達成に向けた指導・助言等)

|目標のうち「売上高」が低調となった問題点について分析を行い、その上で必要な改善策を講じ、令和6年度の取組を推進されたい。

人手不足のため体験メニュー、食事メニューの提供が十分に行うことができなかったことを踏まえ、実施体制の見直しが必要と考えられる。また、宿泊者数は目標を達成しているが、売上高に反映されていないことを踏まえ、売上を確保するために料金の見直しの検討が必要と考えられる。

2. 低調と評価された要因

想定以上の手間がかかり人手不足のため、宿泊者への食事メニューや体験メニューの提供が不十分であったと考えられる。

3. 目標達成に向けた方策

地域の企業、団体と協力し、地元農産物を活用した食事メニューの開発、体験メニューの見直し等を行う。 宿泊者に近隣の畑での野菜の収穫体験や、収穫した野菜利用した食事の提供を行う。

4. 改善状況

団体、企業等の合宿利用があり売上が増加した。収穫体験、収穫した作物を使用した食事メニューが好評であり、継続予定である。売上高はわずかに目標値までは到達しなかったものの、前年度を上回る結果となっている。 このことから、総合的にみて成果が上がっており、改善が図られているため、今後の指導は必要ないと考えられる。

事業実施主体名:北淡路農泊連携協議会

令和7年7月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(※1)
兵庫県		食・景観等の高付加価値化により新たな旅行の目的をつくり、地域内の滞在時間を延ばす。	
淡路市	令和5年度		

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価委員会での評価コメント)

目標については、売上高、延べ宿泊数ともおおむね達成しているが、取組については、研修生が確保できなかったことで計画した取組の大半が実施できていない。また、実施体制も取組を実施できる体制となっていないことから、十分な成果を上げているものとは認められない。

(目標達成に向けた指導・助言等)

取組状況について、計画どおりに取組が実施されなかった問題点について分析を行い、その上で必要な改善策を講じ、令和6年度の取組を推進されたい。 計画どおりに取組を実施するための人材の確保、実施体制の強化が必要と考えられる。

2. 低調と評価された要因

生(人材)の確保ができたかったことから、計画されていた取組の大半が宝施することができたかったことが日煙値を下回った要因だと考えられ

3. 目標達成に向けた方策

研修生(人材)の確保し、計画通りの取組の実施。

4. 改善状況

売上高(179%)、延べ宿泊者数(126%)ともに向上し、目標を達成した。協議会会員からの紹介や知人からの紹介で該当地域から人材を確保し、計画されていた取組もすべて実施することができた。現在、日本人2名、インドネシア人1名が勤務し、今後も継続して勤務する。このことから、総合的にみて成果が上がっており、改善が図られているため、今後の指導は必要ないと考えられる。

事業実施主体名:株式会社M&C

令和7年7月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農福連携支援事業)	取組概要(整備事業)
大阪府	令和5年度		高齢者、障がい者が働きやすい労働環境に配慮した植物工場(室内型)の 施設整備及び植物工場の什器、装備等を整備する。
河内長野市			

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価委員会での評価コメント)

令和5年度の取組状況として、計画に定められた取組は全て実施されているが、植物工場の施設整備等が遅れため、事業実績の全ての項目(「障害者等の雇用又は就労者数」、「売上高」、「交流人口」)が目標値に対し、低調な数値となっている。令和6年度は、植物工場の施設の本格稼働にともない、事業の数値目標が達成されるよう指導を行うべき。 (目標達成に向けた指導・助言等)

植物工場の本格稼働にともない生産を計画的に行うとともに、販路拡大、交流イベントなどの実施を通して、事業実績の全ての項目(「障害者等の雇用又は就労者数」、「売上高」、「交流人口」)について、事業2年目(令和6年度)の目標値を確実に達成できるよう引き続き事業をすすめられたい。

2. 低調と評価された要因

植物工場の施設整備等の遅れに伴い、工場の本格稼働の時間が短くなった為、事業実績の全ての項目が低調な数値となった。

3. 目標達成に向けた方策

- •水耕栽培技術向上等の研修の実施
- ・販売品目の本格的な収穫と河内長野市の保育園や飲食店、スーパー及び自社店舗等での販売活動の実施
- ・交流イベントなどの増加による交流人口、売り上げの拡大

4. 改善状況

障害者等の雇用又は就労者数は、目標の4人を達成、売上高は低調であるが、交流人口は192%を達成しているため、今後の指導は必要ないと考えられる。